

まあ、なんと長い年月が流れてしまったことでしょう！

<心のコンサート・その29>は5回もの順延を経て、ようやく皆さまとの再会が叶いました。
ただただ心踊る喜びでいっぱいです・・・

思いもかけなかったコロナ禍の出現は否応無しに人々に大きな不安をもたらし、日々の営みや
社会そして世界の動きに未だ大きな影響を及ぼしています。多くの悲しみにも遭遇しましたけ
れど、そこに留まるのではなく未来に向けて“希望”や“夢”を育んでいかなくてはと感じます。
そのエネルギーを生み出していくにはどうしたらいいのか・・・一人ひとりが取り組んでいける
ことは何？・・・そんな課題を私たちは現在抱えているような思いがしています。

今日のプログラムの中心に添えた作曲家はフランツ・シューベルト (1797~1828)。

“愛を歌うと悲しみになり、悲しみを歌うと愛になる”と形容されるように、彼の音楽は優しさ
と愛に満ち溢れています。

若いエネルギーと彼独自の優美さに満ちたヴァイオリン・ソナタ イ長調 (グランド・デュオ) は
20歳の時の作品。ウィーンに生まれたシューベルトは僅か31歳で短い生涯を閉じましたが、
遺された作品は数多く、特に歌曲の数は膨大です。プログラムのオープニングには誰もが心惹
かれる美しい歌曲アヴェ・マリアを取り上げました。この曲は言わば彼の晩年 (1825年) の
作品ですが、その歌詞はスコットランドの詩人・小説家、ウォルター・スコットの『湖上の麗人』
という抒情詩からとられたもの。王に追われる身になった主人公エレンが自分の辛い気持ちを
マリアさまに切々と訴え、祈ります。コンサートを開催できないでいた3年間には様々なことが
ありました。悲しいけれどお別れしなくてはならなかった私の大切な人たちに手向ける気持ち
もこめさせていただきました。

シューベルトに続くのは珠玉の名曲小品の数々です。一つひとつの作品に浸り、夢や喜び、
希望を見出していただけたら幸せです。どうぞお楽しみくださいませ。

シリーズの再開を強く願ってくださる励ましのお言葉に勇気をいただき、今一歩前進するこ
ができました。皆さまの温かいお心遣いに心より御礼申し上げます。

また、スタッフとして支えてくれました私の友人や私の家族たち・・・彼らの力添えには感謝
あるのみです。

大津 純子
2022年10月23日

Late Afternoon Concert Songs in the Fall

～ 秋に歌う～

午後のコンサート(前編)

F. Schubert (1797~1828): Ave Maria (Ellens Gesang 3 Op.52-6. D.839)

F. シューベルト：アヴェ・マリア (エレンの歌より)

F. Schubert (1797~1828): Sonata for Violin and Piano (Grand Duo) Op.162, D.574

F. シューベルト：ヴァイオリン・ソナタ イ長調 (グランド・デュオ)

H. Villa-Lobos (1887~1959): The Song of Black Swan (1917)

H. ヴィラ=ロボス：黒鳥 (黒い白鳥) の歌 (1917)

A. Glazunov (1865~1936): Grand Adagio from Raymonda (Ballet) Op.57

A. グラズノフ：グランド・アダージョ (バレエ『ライモンダ』Op.57より)

A. Dvorák (1841~1904) / F. Kreisler: Songs my Mother Taught Me (Gipsy Song) Op.55-4

A. ドヴォルザーク：母の教えたまえし歌 (ジプシーの歌 Op.55-4 / F.クライスラー編)

M. de Falla (1876~1946) / F. Kreisler: Danse Espagnole from Opera “La Vida Breve”

M. de ファリャ：スペイン舞曲 (オペラ『はかない人生』より / F. クライスラー編)